

長浜市が目指す将来の学校園の姿

< 長浜市の現状 >

- ・児童数の減少により、小中・義務教育学校が小規模化し、複式学級が存在する。
- ・就学前児童については、低年齢からの保育、長時間の保育に対する保護者のニーズが高い。

視察やワークショップを受けて

子ども

- ①友だちは大事な存在で、関わりを大切にしたい。
- ②単学級では、人間関係や集団の中での役割が固定される。リーダーはずっとリーダーのままになる。
- ③友だちの個性や性格を決めつけてしまうことがある。
- ④少人数の学級では多様な意見が出にくく、発想が乏しくなることがある。多い学級ではいろいろな意見が出て、発想が豊かになる。
- ⑤不登校の児童生徒が増えている。

先生

- ⑥仕事量が多く、負担が大きい。
- ⑦子どもと直接関わる時間をより確保したい。
- ⑧教材研究や保育・授業の準備に充てる時間を十分に確保したい。
- ⑨教職員が不足している。
- ⑩働き方改革を進めているが、負担軽減につながっていない。
- ⑪複式学級は、学校運営上負担が大きい。
- ⑫保護者対応、地域との連携に時間がかかることがある。

保護者

- ⑬先生との信頼関係は重要だと思っている。
- ⑭先生に思いや悩みをうまく伝えられない。
- ⑮主張し過ぎてクレマーだと思われたくない。
- ⑯子どもに失敗体験をさせたくない。子どもを傷つけない。
- ⑰子どもの話を聞いたり、宿題等を一緒にするゆとりがない。
- ⑱PTAからの発信や働きかけがあり、子育てについて学びの機会はある。

地域

- ⑲地域と学校は一体、密接な関係である。
- ⑳地域の力で、子どもの体験活動等が生まれる。
- ㉑地域と一体となった学校行事を行うことで、人づくり・まちづくりにつながっている。
- ㉒学校がなくなると地域が衰退するのではない心配している。
- ㉓ボランティアは高齢者が多い。
- ㉔スクールガードがない地域がある。

【学校で取り組んでいること】
・オンラインや合同による交流学习
・修学旅行の合同実施

子どもが幸せになる学校園をめざして

【保護者と取り組んでいること】
・PTA意見交換会
・学校の在り方を考える懇談会

【地域と取り組んでいること】
・学運協意見交換会
・地域づくり協議会へのヒアリング

めざすすがた

- ①友だちを大事にしつつ、自ら考え行動できる子どもになってほしい。
- ①②③④多くの友だちと関わり、多様な考えに触れられるよう、可能な限り学年複数クラス編制にし、豊かな人間関係を構築する。
- ④⑤ICTの活用により活動や授業が充実する。
- ⑤学校を選ぶことができる選択肢がある。

- ☆クラス替えのできる学校園の規模
- ☆自分に合った学校を選択できる制度

- ⑥⑦先生がゆとりをもち、笑顔で、子どもと向き合える。
- ⑥⑧教材研究や保育・授業の準備に充てる時間が充分にある。
- ⑥⑦⑨⑩⑪学校統合をすることで、学校園の教員数が増え、業務の負担を減らすことができる。
- ⑥⑦⑨⑫相談対応窓口や相談しやすい仕組みづくりにより、担任の負担を軽減する。

- ☆先生が子どもと向き合える環境づくり
- ☆支え合える教職員集団づくり

- ⑬⑭⑮学校園、先生との信頼関係があり、子どものことを相談できる。
- ⑬⑭相談対応窓口や相談しやすい仕組みづくりにより、保護者と学校園がつながり、保護者が学校を身近に感じられる。
- ⑭⑮安心につながる外部の相談先がある。
- ⑮⑰特色のある多様な学校園があり、ニーズに合わせて選択できる。
- ⑯⑰⑱子どもをほめ、認める存在でありたい。

- ☆子どもも保護者も安心できる学校園
- ☆保護者のニーズに合った学校園を選択できる制度

- ⑲⑳責任と自覚をもち、地域と学校を結ぶコーディネートをする。
- ⑲⑳大学等とのつながりや地域資源をいかす。
- ㉑㉒統合後の跡地利用について、地域と連携し協議する。
- ㉑狭い地域にこだわらず、より広域での連携を推進する。
- ㉑㉒学校支援ができる持続可能なしくみをつくる。

- ☆学校園を支える地域
- ☆学校園が、地域人材の活躍の場に

【全体をふまえた学校園の在り方】

- クラス替えのできる学校園の規模をめざす。
- 学区、園区を見直し、旧町を越えた広域統合も視野に入れる。
- あわせて、通学通園の負担を勘案する。保護者や住民と十分協議する。
- 学校規模や地域連携をふまえた特色ある学校園づくり

- 学校園と保護者・地域との連携促進
- 長浜市内で子どもや保護者のニーズに合った学校園を選択できる制度の検討
- 統合後の跡地利用における地域との連携